カマチグループ

江東リハビリテーション病院

KOTO REHABILITATION HOSPITAL

病院のご案内

病院理念

手には技術
頭には知識
患者様には愛を

基本方針

1. 安心・安全な医療

学問的に高い水準の安心・安全な医療を提供します。
そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

2. チーム医療

患者さん・ご家族と医療情報を共有し、回復期リハビリテーション病院として入院から在宅復帰まで一貫した、患者さんのニーズに沿った安心できるチーム医療を提案いたします。

3. 地域医療

地域の医療・福祉施設と密接な連携をとり、寝たきり「ゼロ」、在宅復帰を目標に誰でも安心して利用できる回復期リハビリテーション病院を目指します。

7F　リハビリテーションガーデン

CONTENTS

病院理念・基本方針 …… 1
院長あいさつ …… 2
病院の特長 …… 3
チーム医療 …… 4
実績 DATA1 …… 5
実績 DATA2 …… 6
リハビリテーション医療 …… 7-12
訪問リハビリテーション …… 13
歯科衛生士 …… 14
栄養管理 …… 15-16
患者さんの 1 日スケジュール …… 17-18
療養環境 …… 19-20
医療福祉相談、入退院の流れ …… 21-22

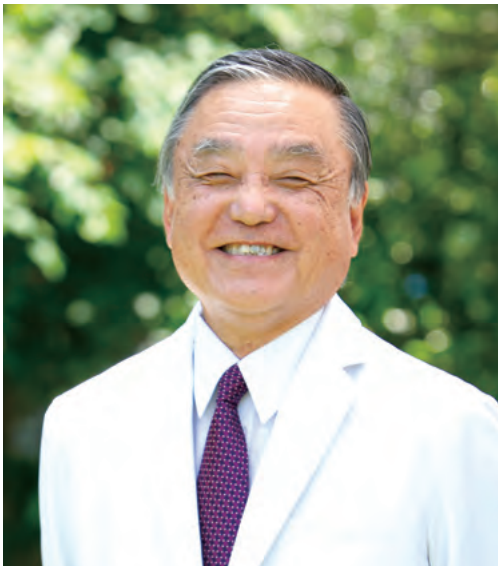
院長あいさつ

江東リハビリテーション病院は、平成29年10月より江東区北砂の地で保険診療を開始いたしました。当院は、カマチグループとして関東で15番目、都内で6番目の病院になります。いずれの病院も回復期リハビリテーション病棟を有し在宅復帰率など、高い実績を上げております。グループで培ったノウハウを生かして、当院も地域医療に貢献していきたいと考えております。

歴史と文化の香り豊かな、“川の手”に、明治通りに面した斬新な意匠の建物が注目されており、スカイツリーを望む屋上庭園、小名木川沿いの遊歩道など、多くの方にリハビリテーションを楽しんでいただける環境になっています。また、最寄り地下鉄駅からも徒歩8分と利便性にも優れております。優秀なスタッフ、設備を整えチーム医療に取り組み、365日休みなく、質の高いリハビリテーション医療を提供いたします。

急性期の病院で救急医療や手術を受けた方々が、そのままでは自宅に帰ることが難しい状態になった場合、専門の施設でのリハビリテーションを経て、ご自宅や介護施設に戻ることが望ましいのですが、江東区においては、回復期病床は少なく、今までは60床程度しかありませんでした。そのため、遠方の施設に紹介されたり、不十分な状態で自宅や介護施設に帰ったりすることもありました。寝たきりにならず、ご自宅へ退院していただくお手伝いができればと考えております。また、多くの方々の職業復帰をめざしたリハビリテーション体制を整えてまいります。いつまでも住みなれた地域で暮らしていけるように、急性期医療と在宅の橋渡しができればと思っています。

今後も、職員一同、安全・安心の医療サービスを心掛けていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



院長 梅北 信孝
Umekita Nobutaka

〈院長経歴〉
昭和51年 東京大学医学部卒
東京大学医学部第二外科
癌研究会附属病院
東京都立墨東病院外科部長
大久保病院副院長
東京都立墨東病院院長
平成29年 江東リハビリテーション病院
院長就任

診療科目 リハビリテーション科

許可病床 300床

病院概要 【設立】平成29年8月　【敷地面積】 3,378.59㎡　【延床面積】 13,175.84㎡

病院施設基準 当院は、厚生労働省の定める基準を満たしている保健医療機関です。
以下の施設基準を関東信越厚生局に届け出ております。

【基本診療料】
- 回復期リハビリテーション病棟入院料1
- 医療安全対策加算2
- 診療録管理体制加算3
- 医療安全対策地域連携加算2
- データ提出加算1・3

【特掲診療料】
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）初期加算
- 運動器リハビリテーション料（I）初期加算
- 廃用症候群リハビリテーション料（I）初期加算
- CT撮影
- 外来・在宅ベースアップ評価料（I）
- 入院ベースアップ評価料

【そ の 他】
- 特別の療養環境の提供
- 入院時食事療養（I）入院時生活療養（I）

江東リハビリテーション病院の特長

Features of Koto Rehabilitation Hospital

日本最大級の回復期リハビリテーション病院

カマチグループは関東、九州、山口に27の病院を保有する医療グループです。当院は日本でも有数の回復期リハビリテーションの病床数を保有しております。また、急性期から回復期を経て、在宅までをチーム一丸となり、患者さんをサポートします。

明るく開放的な療養環境と最新設備

広く明るくゆったりとした空間でリハビリテーションを行うことができ、最新機器を活用して日常生活や職場復帰に向けて全力で支援します。

専門スタッフの在籍数 526名（2024年9月1日時点）

多数の専門スタッフが患者さんの在宅復帰までのサポートをします。

医師	11名	理学療法士	160名	社会福祉士	13名
看護師	121名	作業療法士	89名	薬剤師	6名
准看護師	3名	言語聴覚士	28名	管理栄養士	6名
看護補助者	82名	歯科衛生士	7名		

病院機能評価認定を取得

2024年2月20日・21日の両日にわたり、公益社団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を初めて受審し、2024年6月7日に高評価で取得しました。

特に高い評価をいただいた項目はこちらです。

- リハビリテーション機能を適切に発揮している
- 療養環境を整備している
- 生活機能向上を目指したケアをチームで実践している
- 安全確保に向けた情報収集と検討を行っている
- 地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC2543 号

患者さん中心の「チーム医療」

One team with patient

当院では、各病棟において10職種が患者さんとご家族を支えます。
各スペシャリストが「リハビリテーションだけ」「治療だけ」ではなく、患者さんのニーズに沿って入院検討中から在宅復帰・社会復帰を実現するまで、段階に合わせて適切なサポートを行います。
退院後、社会や家庭復帰に備えて、各種手続きや情報提供などの支援を行える環境が整っています。

在宅復帰へ向けたサポート

月に一度の面談

入院時の面談以外に、月に一度、患者さんとご家族、スタッフ（医師、看護師、療法士、医療相談員等）が集まって面談を行っているのも特徴の一つ。治療計画や状態をしっかりとご説明し、進み具合や方向性、目標の確認をし、在宅復帰に向けて話し合いを行っています。

カンファレンス

1日も早く快適な日常生活を送れるよう、医師、看護師をはじめ、各分野の専門家がチーム体制を組み患者さんを全員で支えます。スタッフ間でのカンファレンスを密に行い、日々の細やかな変化にもいち早く気づき対応、情報共有することで、安全かつ早期の回復へとつながります。

実績 DATA1

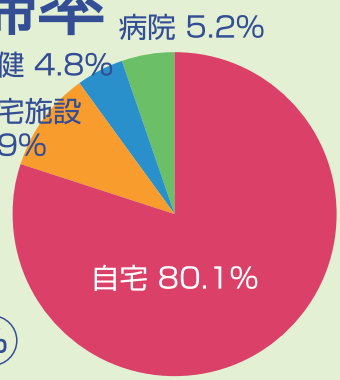
令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

新規入院患者数

1,340名

在宅復帰率

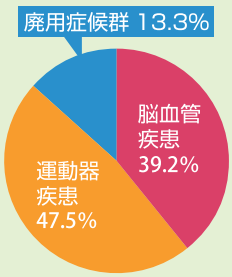
90.0%



病床利用率

98.0%

疾患別内訳



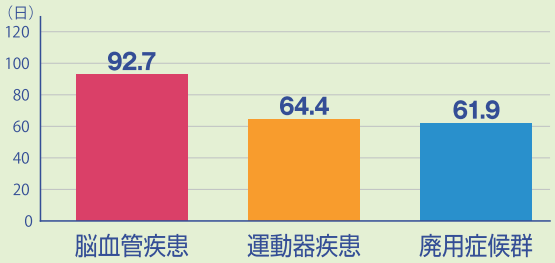
脳血管疾患 **39.2**%

運動器疾患 **47.5**%

廃用症候群 **13.3**%

疾患別平均在院日数

平均 **73.0**日



当院へ入院までの日数

発症日からの日数 **32.0**日

紹介からの日数 **14.9**日

実績 DATA2

令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

アウトカム

≪実績指数≫

リハビリテーションの質の評価

合計 **57.0**

（基準：40以上）

≪ADL(日常生活動作)の改善率≫

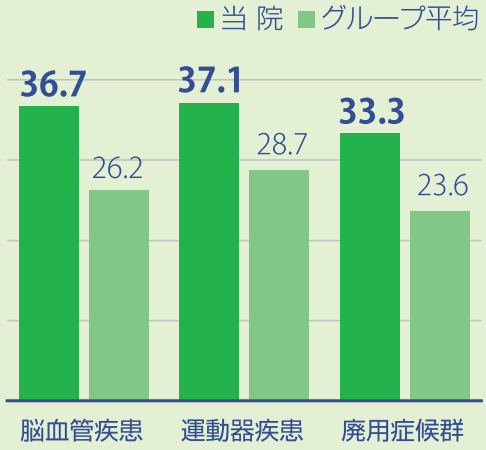
食事　経管栄養から経口摂取へ　**45.2**%

排泄　オムツ離脱率　**60.5**%

≪FIM利得≫

（退院時FIM－入院時FIM）

機能的に自立度を図る評価法。
点数が高いほど日常生活の自立度が高い。



1日あたりのリハビリテーション単位数（最大9単位）

8.5 単位

※1単位=20分

訪問リハビリテーション新規登録者数

97 名

理学療法 Physical therapy

理学療法とは

怪我や病気、加齢などによって運動機能が低下した方に運動による治療や温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて基本的動作能力の回復を図る治療法のことです。

寝返り・起き上がり、座る・立ち上がる・歩行などの基本的動作や更衣・食事、外出などの日常生活動作の改善を図り、最終的にはQOL（生活の質）の向上を図ります。また、地域に住む方々が病気や障害があっても今までと変わらず住み慣れた街で、自分らしく暮らしたいという患者さんの思いを大切にします。介護や医療、さらには生活支援の方と協力し、安心して生活できる環境を目指します。

1階リハビリテーション室

2階リハビリテーション室

多種多様な下肢装具

専門医による回診

リハビリテーション科や整形外科の専門医と連携して質の高いリハビリテーションを提供します

歩行訓練

長下肢装具を使用した平行棒内歩行や屋外での歩行訓練を行います

豊富な医療器具

リハビリテーションの中でも最先端の機器を完備しています

物理療法機器

干渉波や超音波、レーザーなど多彩な物理療法機器

自主トレーニング

リハビリテーション以外の時間も有効に活用します

対象患者さんの幅の広さ

個人の状態に合わせたリハビリテーションを提供します

作業療法 Occupational therapy

作業療法とは

身体や精神に障害のある方、病気や怪我などで身体が動きにくくなった方、気持ちの落ち込みや不安のある方に対して、作業活動を通して日常動作（食事・整容・更衣・排泄・入浴など）で困らないようサポートしていきます。

訓練では、レクリエーション（ゲーム・体操・スポーツなど）や創作活動（手芸・調理など）もリハビリテーションの手段として用いて、快適に自分らしく生きていけるようサポートをします。さらに社会復帰に向けた職前訓練も行っています。

ADL室

シミュレーションルーム

認知症予防運動機器

※ADL室・シミュレーションルームは、退院後の生活を見据えた訓練をする部屋です

機能訓練・自助具

麻痺などにより機能を失った動作の再獲得を目指します

福祉用具

安全に自立した生活を継続できるような福祉用具をご提案します

家屋調査

在宅復帰に向けて専門職による環境調整・確認を行います

ドライビングシミュレータ訓練

自動車運転が必要な方を対象とした自動車運転再開のための支援も行っています

日常生活動作（ADL）訓練

食事、整容、更衣、排泄、入浴など身の回りの動作の自立を目指します

活動・参加への支援

買い物、家事、外出、洗濯、公共機関の利用など一人ひとりの生活スタイルに応じて提案、実施しています

言語聴覚療法 Speech language hearing therapy

言語聴覚療法とは

怪我や病気、加齢が原因でコミュニケーション(言語、聴覚、発声、発音、認知)や、食べることが(摂食嚥下(せっしょくえんげ))不自由になることがあります。

言語聴覚士は医師や歯科医師の指示の下、こうした障害の状態を明確にするために検査や評価を実施します。そして、その方の状態に応じてリハビリテーションや助言などの支援を行います。

コミュニケーション障害や摂食嚥下障害は表面的には見えづらい不自由さが生じます。その方々の生活背景や心理面に配慮して、個別性と人間味のある温かいリハビリテーションを提供します。

ST室(言語聴覚療法用の個室)

高次脳機能検査キット

嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査

摂食・嚥下障害に対する支援

必要に応じて詳細な検査を医師や歯科医師が行い、安全に食事ができるように支援します

就労・復職に対する支援

様々な業務内容を模擬的に練習することができます。退院後の支援機関との連携を行います

先進的なリハビリテーションの導入

摂食嚥下障害に対する物理療法や半側空間無視改善のためのリハビリテーションツールを活用しています

コミュニケーション障害に対する支援

失語症や構音障害、高次脳機能障害などに対するリハビリテーションを行います

訪問リハビリテーション Homecare Rehabilitation

訪問リハビリテーションとは

退院後もリハビリテーションの継続が必要な方に対し、スタッフがご自宅へ伺いリハビリテーションを提供することです。更衣や入浴などの身の回りの動作を安全に行い、家族の中での役割や趣味活動を再獲得できるようにご本人の意向に沿ったリハビリテーションプログラムを立案します。また復職・就労支援や公共交通機関を利用する練習も実施します。そしてケアマネジャーを中心に多職種と連携を図り利用者を支援します。

幅広い訓練内容と豊富な知識で、利用者のその人らしい生活の再獲得を援助し、自宅内での安全な生活と更なる活動範囲の拡大を図れるように支援します。

生活場面での家事動作訓練

住環境での動作訓練

自主トレーニング指導

歯科衛生士 Dental Hygienist

歯科衛生士とは

リハビリテーション科における歯科衛生士の役割は、摂食嚥下リハビリテーションと口腔内の清潔を維持するためのサポート(口腔ケア)です。

脳血管疾患の後遺症や加齢による全身状態の低下に伴った嚥下障害のある方を対象にしています。その役割として言語聴覚士と連携して問題点を共有し、患者様の状態に合った口腔器官や頚部の訓練を行います。

口腔ケアは口腔汚染があり、自力でのケアが困難なすべての方を対象に、口腔内の状態を確認した上で専門的に口腔ケア、歯磨き指導・介助を行います。

舌圧測定

呼吸訓練

多種多様な口腔ケア用品

栄養管理 Nutrition management

患者さんそれぞれの病態や体格、活動量に合わせて食事内容を調整し、適切な食形態での安心安全な食事の提供に努めています。
リハビリテーションを進め在宅復帰の手助けができるよう個々に不足している栄養素を補い、経管栄養から経口摂取を進めたりなど栄養面からサポートしています。また患者さんやご家族に栄養指導を行い、退院後の食事や栄養管理についてアドバイスを行っています。

食形態の紹介

当院にはきざみ食の代わりとなる食形態（超軟菜食）があります。
噛む力や飲み込む力が低下している患者さんにも安心安全に見た目でも食事を楽しんでいただけるような美味しい食事の提供に努めています。

献立例：鶏の唐揚げ

常食

日常食に近いお食事です

軟菜食

固い食品（ゴボウ、蓮根、筍など）や揚げ物（揚げ煮は可）を除いたお食事です

超軟菜食

形（一口大）を残しつつ軟らかく調理、舌や歯茎でも押しつぶし可能なお食事です
※嚥下調整分類2021コード3相当

ペースト食

軟菜食をミキサーでなめらかな状態にしたお食事です
※嚥下調整分類2021コード2-1相当

再形成

ソフト食

ペースト食をゼリー状に固めたお食事です
※嚥下調整分類2021コード2-2相当

ミールラウンドの様子

行事食の紹介

季節に合わせた食材と毎月の行事食をお楽しみください。毎日のお食事もご満足いただけるよう、当院では6週サイクルの献立でバリエーション豊かに食事提供を行っています。

行事食の一例

常食

お正月

黒米御飯
祝椀
鶏の祝い盛り
おせち盛り合わせ

数の子	なます
栗きんとん寄せ	伊達巻
黒豆	一口昆布巻
寿かまぼこ	彩焼売

超軟菜食

ソフト食

常食

土用の丑

うなちらし
すまし汁
海老しんじょうの煮物
スイカ

超軟菜食

ソフト食

一人ひとりに最適なプログラム

The most suitable program for each person

当院では入院中、患者さん一人ひとりに合わせた計画を立て、専任のスタッフによるリハビリテーションを実施。良質な睡眠と日中の安全なリハビリテーション活動に向け、規則正しい生活を送って頂けるよう、個々に合わせたプログラムを作成しています。また10日ごとに、看護師とセラピストで自立度を評価し、介助量の情報共有を図っています。

例：ある患者さんの一日の流れ

の中で、患者さんの目標や状態に合わせて1日最大3時間のリハビリテーション訓練が組まれます。

▼午前のリハビリテーション開始

6:00 起床

7:00 身じたく
日常生活動作自立に向け、整容・更衣・排泄訓練、歩行訓練

8:00 朝食
食事動作訓練

8:30 身じたく
口腔ケア、整容・更衣・排泄訓練、体温・血圧・脈拍などのチェック

8:40 離床活動・個別リハビリテーション
◆立位、歩行訓練
◆外出訓練（屋外歩行、買い物訓練など）
◆義肢装具士・リハビリテーションスタッフと靴や装具の検討
◆福祉用具業者・リハビリテーションスタッフと車椅子やクッション等の評価・選定 など

10:00 体操
離床活動の一環として個別リハビリテーションの間に病棟デイルームにて実施

12:00 昼食
言語聴覚士を中心として摂食嚥下訓練

▼午後のリハビリテーション開始

12:30 **身じたく**
口腔ケア、排泄訓練、体温・血圧・脈拍などのチェック

13:00 **個別リハビリテーション**
◆立位、歩行訓練
◆炊事・洗濯・掃除等の応用動作訓練
◆装具等を用いた動作訓練　など

14:00 **レクリエーション**
離床活動の一環として個別リハビリテーションの間に病棟デイルームにて実施

15:00 **入浴**
患者さんの状態に合わせ、機械浴または大浴場にて入浴

18:00 **夕食**
自助具・福祉用具を用いた個別介入

18:30 **身じたく**
口腔ケア、整容・更衣・排泄訓練

22:00 **消灯**

快適な療養環境 Comfortable environment

一人部屋

四人部屋

木目調でシックな病室は、あたたかみのあるくつろげる空間です
多床室では、家具の配置や共有の洗面台・トイレなど、プライバシーと利便性に配慮しました

デイルーム

食事や体操、レクリエーションを行い、ご家族との語らいや憩いの場としてゆったりとお過ごしいただけます
元気にしてくれる配色やデザイン、明るく差し込む陽に包まれ、気持ちを優しく落ち着かせてくれます

大浴場

吹き抜け階段

ライブラリー

受付・ウェルカムホール

給茶機

洗たく機

日用品自動販売機(1 階)

各フロアに無料で設置していますので、どなたでもご利用いただけます

ライブラリーの書籍や
DVD はご自由にご覧い
ただけます

無料駐車場をご利用いた
だけます
台数に限りがございます

全館フリー Wi-Fi を
ご利用いただけます

医療福祉相談 Medical welfare consultation

ご紹介いただいた患者さんの対応や医療・福祉施設への転院調整、在宅医療・福祉サービス提供者との連携を行い退院調整などを行っています。
入院中にお困りのこと、今後の在宅生活や転院についてや医療保険制度、介護保険制度、障がい者福祉制度など各種制度についてもお気軽にご質問ください。

回復期リハビリテーション病棟とは

脳血管疾患や骨折の手術などのため急性期で治療を受けて、病状が安定し始めた、発症から1～2ヶ月後の状態を回復期といいます。この回復期といわれる時期に集中的なリハビリテーションを行い、低下した能力を再び獲得するための治療を行う病棟を「回復期リハビリテーション病棟」と言います。

当院では回復期対象の患者さんに対して、機能の回復や日常生活で必要な動作の改善を図り、寝たきり防止と社会や家庭への復帰を目的とした、各患者さんごとのリハビリテーションプログラムを組んでいます。そのプログラムに基づき、医師、看護師、看護補助者、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士などが共同で集中的なリハビリテーション医療を提供いたします。

回復期リハビリテーションの対象疾患

対象疾患	最大入院期間
①脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態、又は義肢装着訓練を要する状態	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷および頭部外傷を含む多部位外傷	180日
②大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折、又は２肢以上の多発骨折の発症後、又は手術後の状態	90日
③外科手術又は肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	90日
④大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日
⑤股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日
⑥急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	90日

■入院までの流れ

〈病院間の連絡〉

医師・看護師・医療ソーシャルワーカーから医療連携室までご連絡いただき、FAXにて診療情報提供書・ADL表をお送りいただくようお願いいたします。即日（当日もしくは翌日）、ご連絡いたします。

医療連携室直通（平日9:00～17:00）

TEL 03-6880-1755／FAX 03-6880-1756

〈ご家族の入院前見学・面談の調整〉

ご家族へ電話にてご連絡させていただき、ご希望により入院前見学・面談の日程を調整いたします。

〈見学・面談〉

〈入院決定のお知らせ〉

入院日の調整をさせていただきます。

〈入　院〉

入院日までに以下をご用意ください。

1. 退院証明書
2. 診療情報提供書
3. ADL表
   看護サマリーに含まれている場合は必要ありません。
4. 看護サマリー･看護必要度データ
   食事内容：治療食内容…主食・副菜の形態、塩分・脂肪・タンパク制限の有無、禁止食、カロリーなどについてご記載ください。身長・体重の記載もお願いいたします。
5. リハビリテーションサマリー
6. 画像
   発症後・直近のもの（整形であれば術前・術後）、胸部単純レントゲン・MRI・CT等の画像があれば併せてCD－ROMでお願いいたします。
7. 血液検査データ
   直近のもののコピーをお願いいたします。
8. 薬

※クリティカルパスやプロトコールがある場合はいただけると幸いです。

■入院から退院までの流れ

入　院

↓

医師・リハビリテーションスタッフ・医療ソーシャルワーカー看護師との合同面談

↓

治療プログラム作成

↓

リハビリテーション開始

↓

定期的に患者さんを中心に面談を実施

↓

退院に向けての環境調整と整備

↓

退　院

- 自宅 / かかりつけ医
- 医療介護施設

ACCESS MAP

バスの場合

都営バス［北砂三丁目］［大島一丁目］下車 徒歩３分

●［亀戸駅前］②のりば　より7分
両28「東砂六丁目／第六葛西小学校前方面」行き
亀29「なぎさニュータウン方面」行き

●［錦糸町駅前（南口）］②のりば　より11分
都07「門前仲町」行き

●［東陽町駅前］③のりば　より11分
都07「錦糸町駅前（境川経由）」行き

電車の場合

都営新宿線［西大島駅］下車
A1出口またはA4出口より徒歩８分

カマチグループ
江東リハビリテーション病院
TEL：03-6880-1555　FAX：03-6880-1556
〒136-0073 東京都江東区北砂2-15-15
http://www.koto-reha.com/　E-mail：info@koto-reha.com

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC2543 号

2020.06作成 2024.09第８版